

「これからの食料生産とわたしたち」学習カード 名前()

<p>学習問題 このワークシートは、学習問題Ⅰを追究させる1時目～5時目の振り返りで使います。</p> <p>学習問題Ⅰ「日本が食料をたくさん輸入することには、誰にどんな影響があるのだろう。」 ※学習問題は、児童の予想や疑問を基に児童と共につくるため、必ずしも同文にしようとせず、同意になるようにします。</p>		
<p>学習問題に対する自分の予想</p> <p>学習問題Ⅰ「日本が食料をたくさん輸入することには、誰にどんな影響があるのだろう。」についての予想を記述させます。 ※詳細は、指導の手引き「これからの食料生産とわたしたち」①の学習活動5を参照</p>		
① 月 日 ()	資料をもとに、学習問題をつくり、計画をたてる。	先生より
② 月 日 () 学習問題についての 自分の考え	<p>学習問題Ⅰについて、「日本人の食生活の変化と食料生産の現状」を調べて分かったことを基に総合的に考えさせ、記述させます。 ※詳細は、指導の手引き「これからの食料生産とわたしたち」②の学習活動5を参照</p>	
③ 月 日 () 学習問題についての 自分の考え	<p>学習問題Ⅰについて、「食の安全・安心に対する生産者の取組や環境保全の取組」を調べて分かったことを基に総合的に考えさせ、記述させます。 ※詳細は、指導の手引き「これからの食料生産とわたしたち」③の学習活動4を参照</p>	
④ 月 日 () 学習問題についての 自分の考え	<p>学習問題Ⅰについて、これまで調べて分かったことを基に振り返らせ、新たな課題について考えたことを記述させます。 ※詳細は、指導の手引き「これからの食料生産とわたしたち」④の学習活動5を参照</p>	
⑤ 月 日 () 学習問題についての 自分の考え	<p>学習問題Ⅱについて、解決策を考えた活動を振り返らせ、自分が大切にしたい立場や次の時間までにしておきたいことなどを記述させます。 ※詳細は、指導の手引き「これからの食料生産とわたしたち」⑥の学習活動3を参照 6時目以降については、学習問題Ⅱの追究になるので、直接ワークシートに記述させます。</p>	

←このワークシートは B5判で印刷し、ワークシートを閉じるファイルやノートの表紙や最初のページなどに貼ることで、児童が学習問題と学習計画を意識して学習することができるようにします。

毎時間の記述について、称賛や励まし、次時の学習へのアドバイスなどを教師が書くことで、児童の追究意欲を持続させましょう。また、これにより、教師が児童の思考の流れを把握しやすくなり、次時の指導に役立てられます。

「これからの食料生産とわたしたち」①

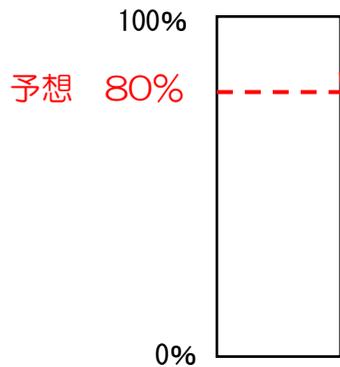
学習活動 1
 これまでの食料生産に関する学習を振り返り、「なぜ生産しているのか。」を問い掛けることで、食料生産に目を向けさせ、学習のめあてを確認します。

めあて **学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。**

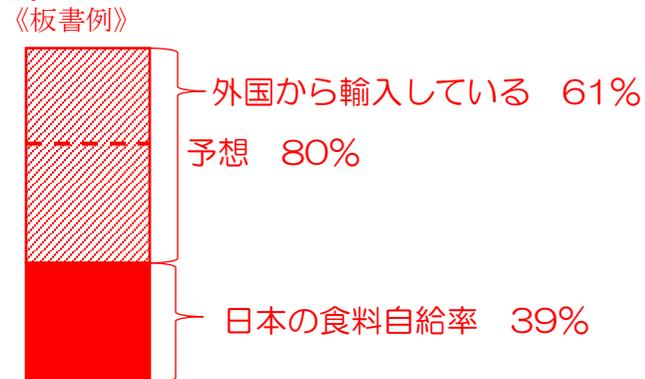
日本の食料自給率

…わたしたちが食べている食料のうち、
 自分の国で作られている（国産の）食料のわりあい。

学習活動 2
 「日本で食べられている食料を 100 とすると、国産の食料はどれくらいあるのだろう。」と問い掛け、図やイラストを使って予想させます。予想は、下のグラフに破線のように線を引かせます。



学習活動 3
 学習活動 2 について、これを「日本の食料自給率」と言うことを教えます。また、答えについて、現状を調べさせます。その結果、日本の食料自給率が 39% であることから、自分の予想と比べさせ、気づきを発表させることで、自分の考えをもたせながら意味を理解させます。その後、残りの 61% はどうしているかを予想させ、外国から輸入しているのではないかという考えを導き出します。この予想については、スーパーマーケットの外国産の商品表示の写真や教科書や資料集のグラフ等を複数提示することで、「日本は、食料をたくさん輸入していること」を確認させます。



この学習活動を通して、既習の生産者の努力や工夫と対比させたり、児童の予想と現状とのずれを提示したりして、下記の児童の気づきや驚き、更なる予想を導き出します。

- 《導き出したい児童の気づき》
- ・日本は外国からたくさん食料を輸入にしている。
 - ・日本の食料自給率は低い。
 - ・どうしてだろう。
 - ・日本人が食べる食べ物が変わったのかな。

名前()

学習問題 《設定例》
 日本が食料をたくさん輸入することには、だれにどんなえいきょうがあるのだろう。

学習活動 4
 日本の食料自給率の現状は「良いことか」「困ることか」を問い掛け、学級全体で影響について予想させます。児童の発言に対して「誰にとって？」と問い返すことで、食料生産に関する立場（生産者、消費者、販売者など）を導き出します。また、児童が外国産の食料についての発言した際に、外国産のイメージを問い掛けます。これから、価格の安さや安全性への心配などを取り上げますが、更に根拠について問い返すことで、調べて確かめようとする課題意識をもたせるようにし、学習問題 I の設定へと導きます。このようにして児童の気づきや疑問を生かして、児童の言葉を使って、児童と共に学習問題を設定します。

〈学習問題に対する自分の予想〉

だれに（立場）	
消費者	値段が安い

学習活動 5 【評価】思考・判断・表現
 これからの学習に対する見通しをもたせるために、学習問題 I に対する予想を立場（だれに）と（どんな）影響（があるか）を考えさせ、記述させます。考えた予想の立場の数を確認し、複数の立場から予想することができている児童を称賛することで、評価への意欲付けを行います。児童の予想を立場ごとに整理して板書します。

- 《児童の予想の記述例》
- 消費者の立場**
- 食料品を安い価格で買える？
 - たくさん種類を食べられる？
 - たくさん量を食べられる？
 - △食料が安全かどうか心配？
- 生産者の立場**
- △日本のものが売れなくなってしまう？
- 販売者の立場**
- 商品の品ぞろえが良くなる？
 - △安心して買ってもらえるか心配？ など

児童の予想に○（良いこと）や△（困ること）を付けることで、どんな影響なのかを確認しやすくします。予想を確かめるために、児童の予想を記した板書に「？」を付け、調べることを明らかにし、次時の学習で調べることとして、「食生活の変化」と「日本の食料生産の現状」を取り上げることで、これからの学習で確認する必要性を示し、調べる意欲付けを行います。

※B4判で作成しています。

「これからの食料生産とわたしたち」②

学習活動1
前時の振り返りを基に、学習問題I、学習計画を確認し、学習のめあてを設定します。

めあて
日本人の食生活の変化と食料生産の現状を調べよう。

TPP

名前()
かんたいへいようせんりやくてきけいざいれんけいきょうてい
(環太平洋戦略的経済連携協定)

→品物を外国に売ったり、外国から買ったりするときにかかる税金（関税）をなくして、
輸出入（輸出・輸入）をしやすくする（増やしていく）取り組み。

学習活動4
食料生産の現状として、TPPにも触れておきます。TPPについては偏った捉え方にならないように、教科書や資料集を基に、日本にとって良いことと困ることの両面から考えさせます。
《板書例》
○ 日本の商品を外国にたくさん売ることができる。（生産者）
○△外国産の食料が安く、たくさん輸入することができる。（消費者、生産者）

食生活

変化

学習活動2
普段の食事や朝食アンケートのグラフから、食生活が和食から洋食中心に変化してきていることに気付かせます。

和食中心 → 洋食中心
ご飯 → パン（小麦）
魚 → 肉
↑ 食料の輸入へ

☆次のグラフから読み取れることを書き

学習活動3 【評価】資料活用の技能
食料生産の現状がイメージしやすいように、「食料品別の輸入量の変化」「産業別の人口のわりあいの変化」「土地利用の変化」の3つのグラフを関連付けながら読み取らせませす。

食料品別の輸入量の変化
(小麦・大豆・米など)
[グラフ]
教科書や資料集などから
(著作権に配慮し掲載していません)

《記述例》
食料の輸入量は、昭和35年から増えて続け、平成2年からさらに増えている。輸入が増えたところから食生活も変わってきたのではないか。

産業別の人口のわりあいの変化
(1950年と現在の比較)
[グラフ]
教科書や資料集などから
(著作権に配慮し掲載していません)

《記述例》
昭和25年は、農業や水産業をする人が日本の人口の約半分だったが、平成24年度は、日本の人口の約4%になっている。食料生産をする人が減っているのは商業をする人がふえたから。

土地利用の変化
(田、畑、宅地面積の比較)
[グラフ]
教科書や資料集などから
(著作権に配慮し掲載していません)

《記述例》
全国の田や畑の面積は昭和40年ごろから減り続けている。食料を輸入し始めたら、田や畑も農業をする人もへってきている。

☆今日の学習をふり返って、食料を輸入することには、だれに（消費者、生産者、はん売者）、どのようなえいきょうがあるのか書いてみましょう。また、そのことがどの資料から分かったのか、資料名もカッコ書きで書きましょう（例：教科書P.112の①価格のグラフ、○○の新聞記事など）。

だれに（立場）	えいきょう（資料名）
	<p>学習活動5 【評価】知識・理解 学習問題Iと調べたこととを関連付けて考えさせ、学習問題Iに対する自分の考えを記述させます。その際、調べたことを根拠に記述できるように、考えの基になった資料名を記述させるようにします。また、前時の予想と同じように記述させることで、学習問題Iの解決を意識できるようにします。 振り返りのポイントとして、以下のことから考えを書かせるようにします。 ・日本人の食生活が和食中心から洋食中心に変化してきたこと ・日本の食糧生産の現状として、外国からの食料輸入を増やすことができるTPPが締結されたこと。</p>
《記述例》 消費者	○外国産の食料をより安い値段で買うことができるようになる。（資料集p. ○のTPPの図） △日本産の食料を食べられなくなるかもしれない。（教科書p. ○の産業別の人口のわりあいの変化のグラフ）
《記述例》 生産者	○外国に、日本産のお米や野菜を輸出できる。（資料集p. ○のTPPの図） △ますます、農業や水産業をする人が減る。（教科書p. ○の産業別の人口のわりあいの変化のグラフ）

※B 4判で作成しています。

「これからの食料生産とわたしたち」③

学習活動1

これまでの学習を振り返り、学習問題Iの解決度を確認し、食の安全に関する新聞記事を基に、めあてを設定します。

めあて

食の安全・安心に対する取り組みについて調べよう。

【消費者の思い】

- 外国産に対する不安がある。
- 安全な食料を安心して食べたい。



【生産者やはん売者の思い】

- 安心して食べられるようにつくりたい。
- 安全なので、安心して買ってほしい。

学習活動2 【評価】 関心・意欲・態度

食の安全に関する新聞記事を基に、消費者がどのようなことを望んでいるかを考えさせます。その後、生産者やはん売者の立場から、生活経験や3年次の地域の生産や販売の仕事の学習を想起させ、消費者の望みに応えるために、どのような取組を行っているのかを教科書や資料集、配付資料から調べさせます。調べるための資料としては、次の3点が考えられます。

- スーパーマーケットや直売所の生産者の顔が見えるようにしている商品
- スーパーマーケットや直売所で働く人の話や生産者の話
- トレーサビリティの仕組み など

☆食の安全・安心に向けて行われている取り組みについて、立場（消費者、生産者、はん売者）を入れながら、自分の言葉でまとめましょう。

学習活動3 【評価】 知識・理解

食の安全・安心に対する取組について調べたことをまとめさせます。

その際、消費者、生産者、販売者の言葉を使って記述させることで、それぞれの立場の食の安全・安心についての思いや願いと取組の目的や意味とを関連付けてまとめることができるようにします。

《記述例》

スーパーマーケットや直売所で、生産者の顔が写っている写真や生産者の声を貼っている商品を買っているのは、消費者が安全な食べ物を食べたいという思いに応えるためにしていることが分かりました。これで、消費者は、安心して食料品を買うことができます。

野菜や肉、魚に〇〇産と書いてあるのは、どこで作ったり、とれたりしたものが分かるようにしているのは知っていたけれど、生産地や生産者だけではなくて、どうやって作ったかやどこを通ってきたかなど、もっと詳しく分かるようにしているので、はん売者も消費者も安心して売ったり買ったりすることができていたことが分かりました。 など

名前()

農家、漁師、林家と一緒に
植林している写真

教科書や資料集などから
(著作権に配慮し掲載していません)

なぜ、農業、水産業、林業で働いている人が、いっしょに活動しているのだろう？

☆水がどのようにめぐっているのか考えてみよう。

山、田畑、海までの水の循環について分かる絵や図

教科書や資料集などから
(著作権に配慮し掲載していません)

学習活動4

食の安全・安心に対する取組についての理解を深めさせるために、農家や漁師、林家と一緒に植林をしている写真と水の循環が分かる絵図を示し、「なぜ、一緒に活動しているのか。」を考えさせます。これにより、児童が次の2点に気付くことができるようにします。

- 食料生産は、田や畑、海で行われており、自然環境と関係があること。
- 安全な食料を作ったり、とったりするためには、環境を守ることが大切であり、それは、それぞれの生産者だけではなく、わたしたちも含めて社会が一体となつてとり組みなければならないこと。

※B 4判で作成しています。

「これからの食料生産とわたしたち」④

学習活動 1
 これまでの学習を振り返り、学習問題 I の解決度を確認し、学習問題 I に対しての自分の考えをまとめることをめあてとします。

めあて
日本が食料を輸入することのえいきょうについて、自分の考えをまとめよう。

☆TPP（協定文が確定した）現在、今後さらに食料の輸入が進んでいくことが考えられます。食料の輸入が進んでいくことによる「いいこと」や「こまること」を整理して、自分の考えをまとめる参考にしましょう。

学習活動 2 【評価】資料活用の技能

学習問題 I 「日本が食料をたくさん輸入することは、誰にどんな影響があるのだろうか」について、これまでの学習で調べてきたことを基に、「良いこと」（メリット）と「困ること」（デメリット）の視点から整理させます。整理の仕方については、実践事例 3 では、付箋紙を使い、個人→少人数グループ→学級全体の学習形態で、以下の手順で行いました。

- ① それぞれの学習形態での目的を説明し、それぞれの活動に目的をもって取り組ませます。
 - ・個人・・・自分の力でこれまでの学習を振り返って整理してみる。
 - ・少人数グループ・・・自分の「良い」「困る」という判断やその理由について、友達とそれぞれが書いた付箋紙を基に交流し、グループの意見としてまとめる。
 - ・学級全体・・・学級のみみんなの意見を聞いて、自分の考えを再度整理にする。
- ② 個人で付箋紙に整理します。
 - ・影響が及ぶ立場ごとに付箋紙の色を分けて書かせます。（消費者への影響・・・赤、生産者への影響・・・青、販売者への影響・・・黄）
 - ・付箋紙の書き方例

自分の考え
 パンやめん類など、いろいろな種類の食料を食べることができる。

根拠となる資料名
 （自分の名前）

- ③ 少人数グループで意見交流し、グループの意見としてまとめさせます。グループのワークシートは、**児童のワークシート④-グループ用**を参考にしてください。
 - ・意見を紹介する順番を決め、順に自分の付箋紙を紹介させます。付箋紙は、グループ用のワークシートに貼らせます。
 - ・指導のポイントは、友達が付箋紙を紹介した際に、他のメンバーに反応させるようにしてください。例えば、「同じ意見だったら、「同じです」と付箋紙を重ねさせたり、「意見は同じだけれど、理由が違います」と違う意見を付け食わせたり、「もう少し詳しく教えてください」と根拠や理由を聞かせたりする反応が考えられます。
- ④ 学級全体で、グループでまとめた意見を交流させます。
 - ・グループ用のワークシートを黒板に並べて掲示し、教師または司会の児童の進行で、意見やその理由を交流します。あくまでも、個人の考えを整理するために行うので、「良い」「困る」の判断について意見が分かれることが予想されますが、ここでは、理由を聞くだけにします。

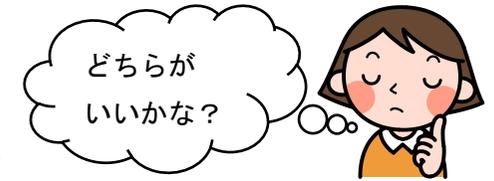
資料名			
-----	--	--	--

名前()

☆学習問題 I 「日本が食料をたくさん輸入することには、だれにどんなえいきょうがあるのだろうか。」に対して、自分の考えを文章でまとめましょう。

- ① **これからの日本の食料**について、どちらをゆう先していくべきでしょうか。自分の考えとそう考えた理由を書きましょう。

- ・ 輸入をもっと増やすべきである。
- ・ 国内生産を高めていくべきである。



- ② 理由は、「輸入」という言葉を使って書きましょう。

例：輸入を増やしていくと～、輸入をすることによって～

- ③ 理由は、だれ（立場）にとって、どんなえいきょうがあるのかを分かりやすく書きましょう。

例：消費者にとって～、生産者にとって～、はん売者にとって～

これからの日本は、 なぜなら、 	<p>学習活動 4 【評価】思考・判断・表現 学習活動 3 の受け、自分の考えをまとめさせます。ここでは、誰にどんな影響があるのかをまとめさせるのではなく、自分の考えをもたせるために、調べたことを活用させて、これからの日本の食料生産について以下の手順で考えをまとめさせます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① これからの日本の食料について、優先させていくべき考えを選択させます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸入をもっと増やすべきである。 ・ 国内生産を高めていくべきである。 ② 個人の選択理由を、「輸入」という言葉を使わせて、複数の立場で書くように指示します。 <p>※この際の評価は、どちらを選択したかではなく学習活動 3で出した意見を根拠にして自分の考えが表現できるかどうかを見ます。複数の立場を勘案している表現を「十分満足できる状況」とします。</p>
	<p>学習活動 5 学習活動 4 での児童の判断を受け、学習問題 II を設定します。予想される児童の判断が、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国内生産を高めていくべき」を選択した児童がほとんどの場合 学習問題 II 「国内生産を高めるには、どうすればいいのだろう」 ・ 「輸入をもっと増やすべきである」を選択した児童がほとんどの場合 学習問題 II 「これからの日本の生産者には、どんな工夫が必要だろう」 学習問題 II 「輸入を増やすことで、困る人たちには、どんな支援ができるのだろうか」 ・ 「国内生産を高めていくべき」「輸入をもっと増やすべき」それぞれを選択した児童がほぼ半数ずつになった場合 学習問題 II 「これからの日本は、どちらを優先させるべきだろう」というように、学習問題 II を設定することが考えられます。 <p>本実践事例では、「国内生産を高めていくべき」を選択した児童がほぼ全員でしたので、以下の学習問題 II で授業を進めました。</p>

学習問題 II
日本が食料の国内生産を高めるには、どうすればいいのだろう。

「これからの食料生産とわたしたち」④ - グループ用

グループ名

☆食料の輸入が進んでいくと…

	いいこと	こまること
消費者	<p style="text-align: center; color: red;">「これからの食料生産とわたしたち」④の学習活動2で使用します。</p> <p>予想される児童の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国産の食料品が、安く手に入る。 ・ いろいろな国の料理が食べられるようになる。 ・ TPP協定で輸入されるようになると、もっと外国産の食料品が安くなる。(関税がなくなる) など 	<p>予想される児童の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体に害を与える「農薬」を使っているばあいがあるので、安心して買えなくなる。 ・ 日本産の食料を食べたくても、食べられなくなってしまいう可能性がある。 ・ どこの誰が作っているのかわからないから不安になる。 など
生産者	<p>予想される児童の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国産に負けない食料品をつくるために、よりおいしい味やたくさんとれる方法が、研究される。 	<p>予想される児童の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本産の食料品が売れなくなっていき、生産者は生活に困る。 ・ 外国産より安い値段で売らなくてはならなくなり、生産者は困る。 ・ 生産者をやめなくてはならなくなる。 ・ 田や畑の面積が減り、環境にも悪影響が出るかもしれない。 など
はん売者	<p>予想される児童の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TPP協定で輸入されるようになると、たくさんの種類の食料品を安く売ることができる。 ・ さまざまな国から安い商品を取り寄せることができるようになるので、収入が増える。 など 	<p>予想される児童の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TPP協定で輸入されるようになると、外国産の食料品がたくさん入ってくるので、日本産が売れなくなる。 ・ 生産直売所などのお店に買い物に来るお客さんが減る。 など

※B 4判で作成しています。

「これからの食料生産とわたしたち」⑤-1

解決さくチェックシート

学習活動1
 これまでの学習を振り返り、学習問題Ⅱを確認し、「日本の国内生産を高めるための解決策を考えよう」をめあてとします。

学習問題Ⅱ「日本が食料の国内生産を高めるには、どうすればいいのだろう。」

☆学習問題Ⅱについて、みんなが考えた解決さく
 意見を言ったりする時の参考に
 するシートです。

学習活動2 【評価】思考・判断・表現
 これまでに学んだことを基に、日本の国内生産を高めるための解決策を個人で考えさせます。この際、よりよい解決策とはどのようなものかを問い掛け、以下の3点を、解決策をチェックする観点として導き出します。
 ①実現可能性（本当にできないのなら意味がない。）
 ②効果（国内生産が高まらないと意味がない。）
 ③即効性（すぐに効果が出ないと意味がない。）

※解決策は、特に分野を制限せず、幅広いアイデアをできる限りたくさん出すように指示します。
 ※解決策を考えるごとに、3つの観点でチェックさせることで、解決策を比較させ、よりよい解決策を考えることができますようにします。
 ※メモ欄には、解決策を考える基になった資料や解決策によってどのようなよいことがあるのかを表現させます。

評価は、児童の実態に応じて「少なくとも3つ考えよう」など、考えた解決策の数を示し、考えた数によって判定基準を設けます。

○解決さくは3つの観点でチェックします。それ

- 観点**
- ①**実現できるか（実現可能）**：解決さくは**実現**
 - ②**効果はあるか（効果）**：解決さくは国内生産
 - ③**そっこう性があるか（そっこう性）**：解決さ

○参考資料の（ ）には、**解決さく**を考える

→教科書や資料集のページ、資料名、資料の番

○メモには、**解決さく**の内容や◎・○・△にした
 う。どうろん会で自分の考えをしっかりと

《記述例》

参考資料（ ）			
解決さく	実現可能	効果	そっこう性
耕作放棄地を人に貸し出す	◎	◎	△

メモ
 使われていない田畑を使えば、使っている田や畑が増えるので国産の食料が増えるし、農業をしたいけれど田畑がない若い人が、増えてきているという新聞記事があったから借りる人もいると思うから。

名前（ ）

参考資料（ ）

解決さく	実現可能	効果	そっこう性
農業機械を増やす補助金を出す	○	○	○

メモ

機会が増えたら、農業をすることが楽になって、収かくも増えるし、農業をしたいという人が増えるから。

参考資料（ ）

解決さく	実現可能	効果	そっこう性
県産のあさごはんを紹介する	◎	○	◎

メモ

県産食料品のよさをアピールすれば、県産食材を買う人が増えると思う。佐賀県は、この解決策をやっていて、効果が出てきているから。

学習活動3
 複数の解決策を考えた児童を取り上げ、基になった資料や視点などを称賛することで、他の児童へのヒントにさせたり、活動意欲を喚起させたりします。

参考資料（ ）

解決さく	実現可能	効果	そっこう性
女性用の道具を増やす	◎	◎	△

メモ

生産者には、若い女性が少ないという新聞記事があったので、女性向けの農業機械や作業着などを増やせば、農家や漁師が増えると思うから。
 など

※B 4判で作成しています。

「これからの食料生産とわたしたち」⑤-2

名前()

参考資料 ()

かいけつ 解決さく	じっげんかのう 実現可能	こうか 効果	そっこう性

メモ

「これからの食料生産とわたしたち」⑤-1で示した他に以下のような解決策が考えられます。

- ・農業ボランティアを募集する。
- ・農作業軽減ロボットを開発する。
- ・和食のキャンペーンをする。
- ・日本でも作れる農作物や養殖できる魚を増やす。

参考資料 ()

解決さく	実現可能	効果	そっこう性

メモ

参考資料 ()

解決さく	実現可能	効果	そっこう性

メモ

参考資料 ()

解決さく	実現可能	効果	そっこう性

メモ

参考資料 ()

解決さく	実現可能	効果	そっこう性

メモ

参考資料 ()

解決さく	実現可能	効果	そっこう性

メモ

「これからの食料生産とわたしたち」⑥

とうろん準備シート

学習活動1
前時の学習を振り返らせ、児童が考えた解決策を紹介させ、どれがよりよい解決策かを問い掛けることで、考え方を学ぶために討論会を行うことを伝え、めあて「討論会の準備をしよう」をつくります。

学習問題Ⅱ「日本が食料の国内生産を高めるには、どうすればいいのだろう。」

とうろん題「国内生産を高めるには、(**農業をする人を増やす**)べきである。」

【自分の立場は、 **さんせい** ・ **反対**

学習活動2
児童の考えが深まるように、農家の立場に立たせ、実現可能性の視点から解決策を絞り込んでいき、1つの解決策に絞ります。
※よりよい社会の在り方を考える方法を学ばせることに主眼を置き、これまでに児童が学んだ知識を活用して考えることができるような解決策を選ぶようにしてください。
実践事例3では、「農業をする人を増やす」に絞られました。

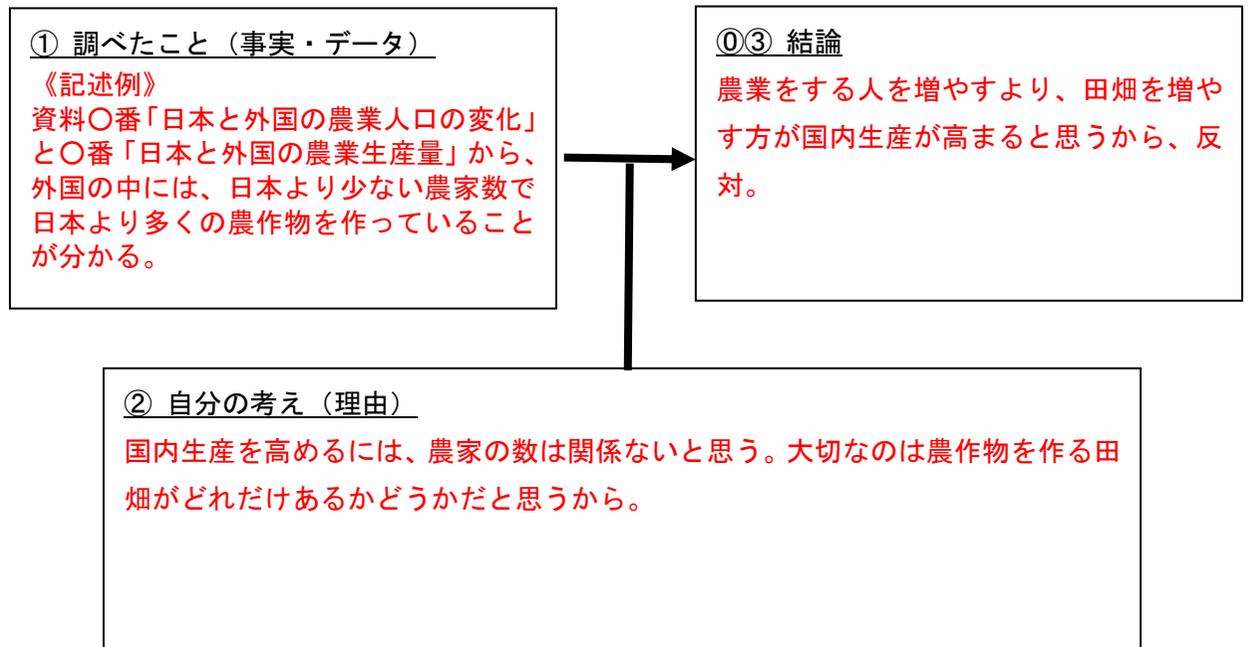
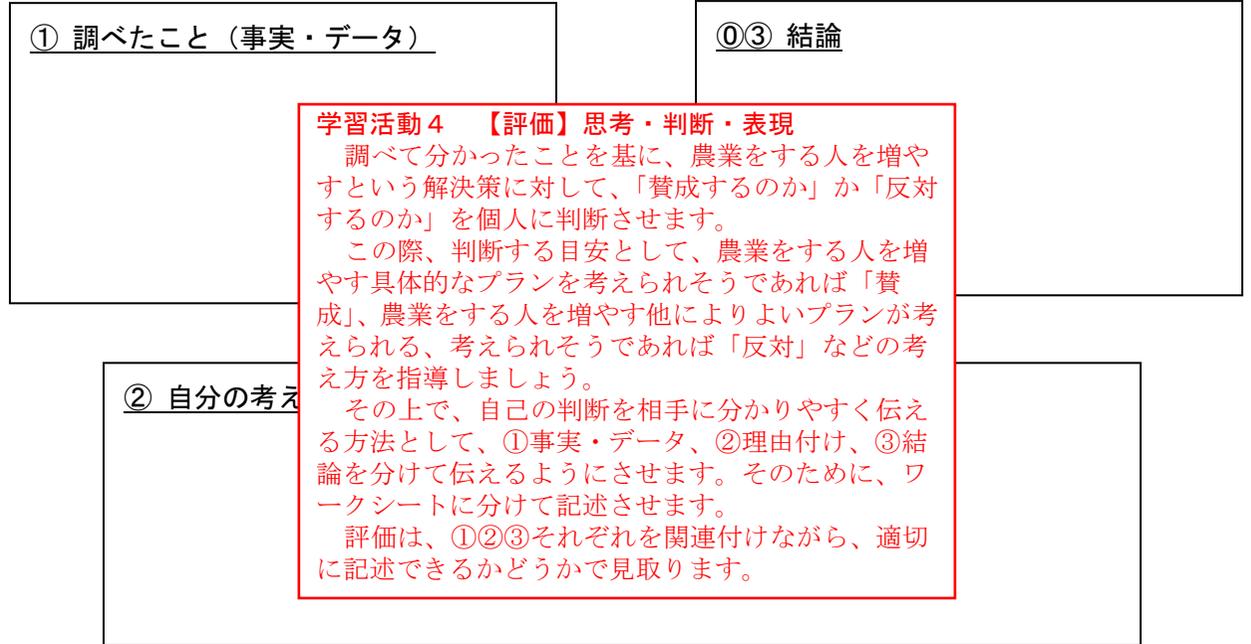
学習活動3
討論題「国内生産を高めるためには、農業をする人を増やすべきである。」に対する自分の考えを明確にさせるために、この解決策のメリット（プラス面）とデメリット（マイナス面）を調べさせます。
この際、資料として、教科書や資料集だけでは難しいので、JAや農林水産省、経済産業省のホームページ、農家へのインタビュー記事など限定した資料を用意しておく必要があります。

☆「 **さんせい** 」ことについての良い点

	内容
メリット (プラス面)	
デメリット (マイナス面)	

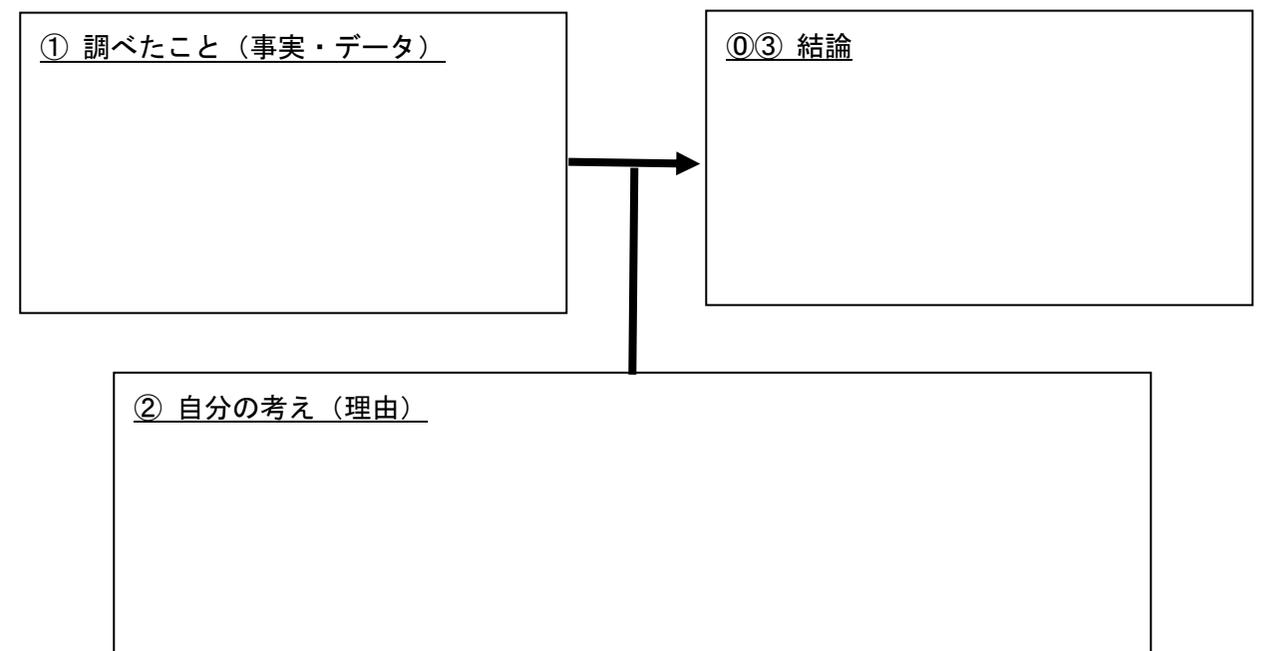
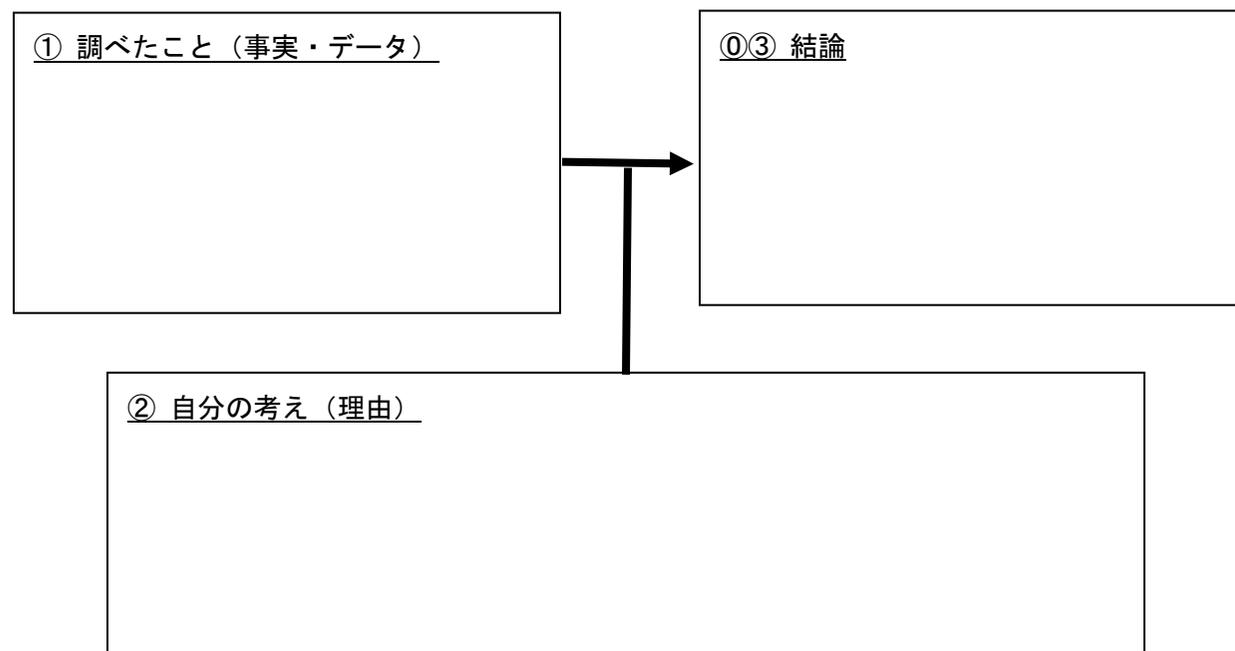
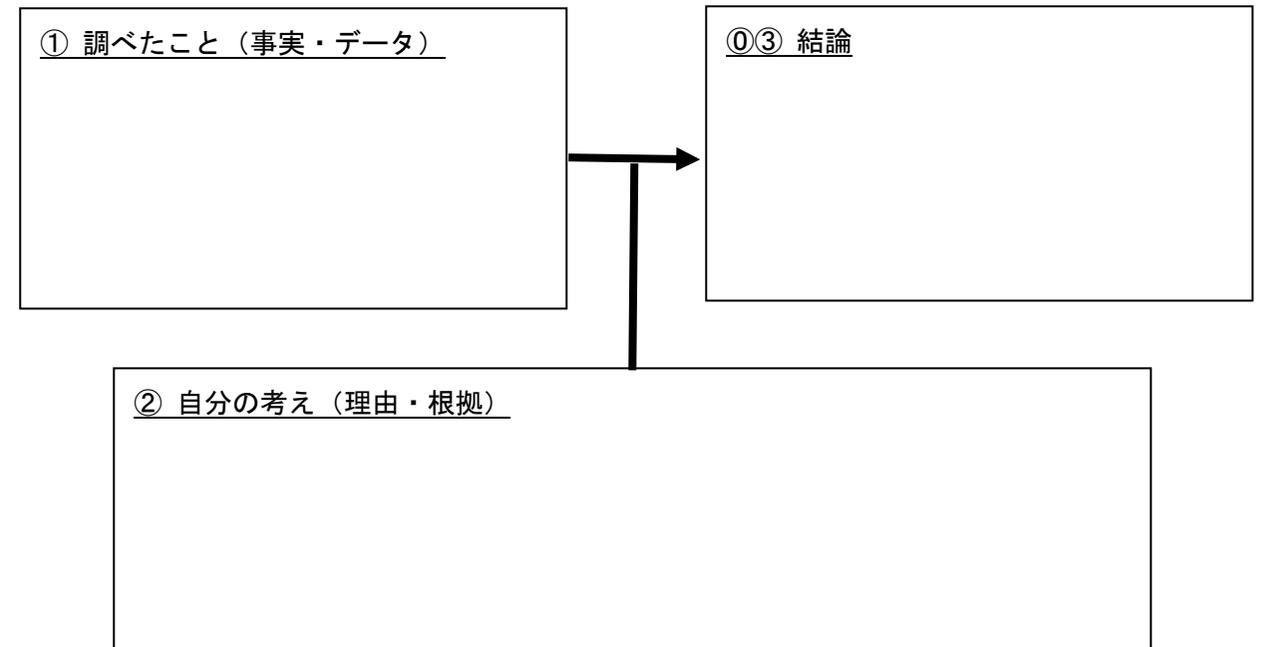
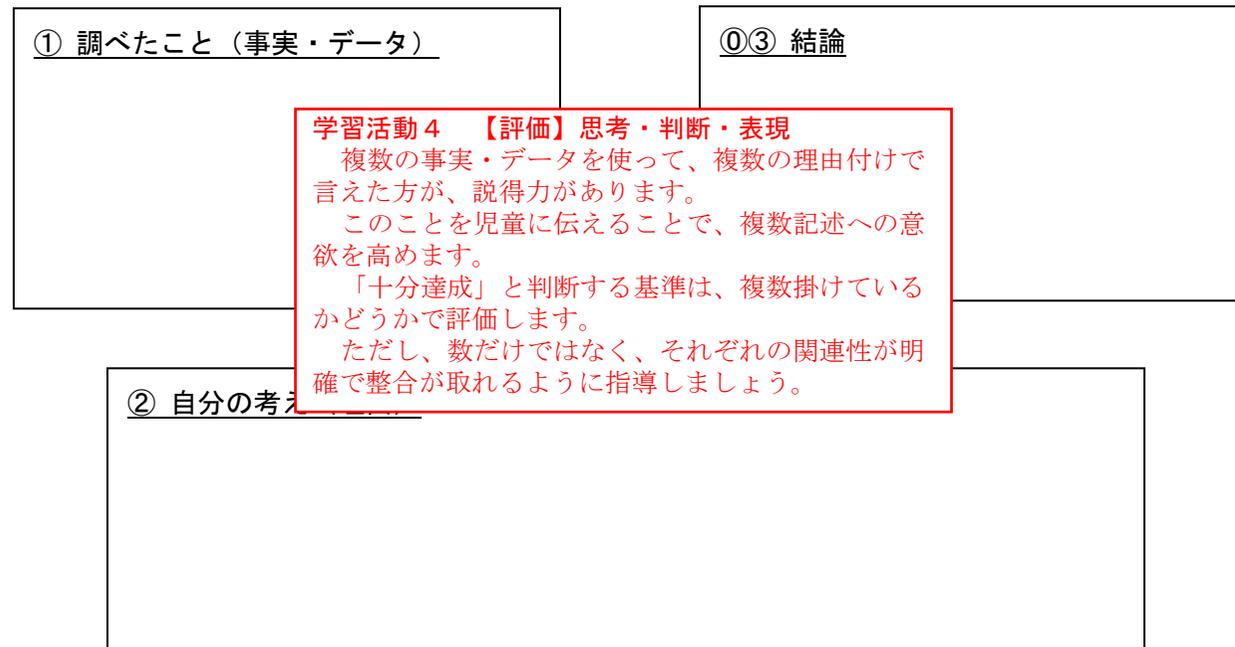
名前()

☆とうろん会の時に分かりやすく発表できるように、「意見ののべ方」に合わせて発表する内容を整理しておきましょう。書く内容は、「**農業をする人を増やす**」ことについての良い点と問題点や解決さくチェックシート、教科書、資料集、配布された資料を参考にしましょう。



「これからの食料生産とわたしたち」⑥-2

名前()



※B4判で作成しています。

「これからの食料生産とわたしたち」⑦-1

とうろん会シート

学習活動1

これまでの学習で作成した解決策チェックシートや討論準備カードを基に、討論会を行うことを確認し、めあて「学習問題Ⅲについて討論会をして考えを深めよう」を設定します。

☆とうろん会を行う時に、みんなから出た意見をメモして、全体の話し合いの流れや自分の考えをまとめる参考にしましょう。

とうろん題「国内生産を高めるには、(**農業をする人を増やす**)べきである。」

【自分の立場は、 **さんせい** ・ 反対】

	初めの意見（立ろん）	質問・反ろん
さんせい	<div data-bbox="502 774 1270 1740" style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>学習活動2 【評価】思考・判断・表現 討論会を行わせませす。 ※討論会の目的は、児童が自分の考えを広げたり、深めたりすることです。自分と違った考えの友達の意見をよく聞いて反応するように伝えてください。また、勝ち負けではないことを確認するようにしてください。</p> <p>手順は、児童の討論会の経験に応じて設定してください。 (討論会の流れ例)</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【討論の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①賛成派立論 ②反対派質問 ③反対派立論 ④賛成派質問 ⑤作戦タイム ⑥反対派反論 ⑦賛成派反論 ⑧作戦タイム ⑨反対派再反論(まとめ) ⑩賛成派再反論(まとめ) </div> <p>※以降の留意点は、初めて討論会をする場合を想定しています。児童の実態に応じて働き掛けてください。</p> <p>意見を述べる際は、調べた事実を根拠として理由付けをさせ、述べさせるようにします。前時の①②③の順に述べるように指示してください。</p> <p>質問や反論の際、相手の意見を確認したり、討論後に意見の流れを振り返ったりすることができるように、ワークシートに簡単なメモを取らせるようにします。</p> </div>	
反対		

名前()

☆とうろん会を行う中でたくさんの意見を聞いて、自分の考えが深まったと思います。

初めの考えと、とうろん会後の考えに○を付けて、とうろん会後の考えになった理由をとうろん会のふり返りに書きましょう。

○自分の考えの変化

初めの考え 【 賛成 ・ 反対 】

↓

とうろん会後の考え 【 賛成 ・ 反対 】

○とうろん会のふり返り（自分の考えが、変わったり変わらなかったりした理由）

学習活動3 【評価】思考・判断・表現

討論会を振り返らせ、自分の考えの変化やその理由の深まりなどをポイントに記述させてください。
 多面的・多角的な思考になるように、賛成、反対の両者の立場を考慮した記述ができるように支援してください。

※B 4 判で作成しています。

「これからの食料生産とわたしたち」⑦-2 名前()

学習問題Ⅱ「日本が食料の国内生産を高めるには、どうすればいいのだろう。」

とうろん題「国内生産を高めるには、(**農業をする人を増やす**)べきである。」

○とうろん会の前と後での自分の考えと解決さく

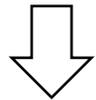
初めの考え 【 さんせい ・ 反対 】

自分が1番効果があると思う国内生産を高めるための

学習活動4

討論会を振り返らせ、自分が、一番効果が高いと考える解決策を決めさせます。

討論会後の考えが「反対」になった児童には、討論会で取り上げた解決策以外の解決策を選択させることとなりますが、考え方は同じで、より多くの人々が納得できる解決策を考えましょうと声を掛けます。また、様々な解決策の折衷案を考える児童も考えられますので、5時目に出た解決策に限らないようにして、よりよい考えを求めさせてください。



とうろん会後の考え 【 さんせい ・ 反対 】

自分が1番有効だと思う国内生産を高めるための解決さく

※B4判で作成しています。

「これからの食料生産とわたしたち」⑧

学習活動1
 討論会での考えの深まりを称賛し、実社会に開かれた学びにするために、単元のまとめとして実社会の大人に提案してみようと投げ掛け、めあて「提案文を書こう」を設定します。
 提案先は、学校の実情に応じて設定してください。

名前（ ）

）より

☆これまでに学習したことをもとにして、国内生産を高めるために1番効果があると考え解決さくを（ JAの〇〇さん ）に提案しましょう。

提案文には、自分の考えとその理由をできるだけ具体的に書きましょう。

「国内生産を高めるための取り組みについて」

わたしが、1番効果があると考え解決さくは、

学習活動2 【評価】思考・判断・表現
 自分が提案する解決策について、どんな効果が考えられるのかについて、調べた事実、理由付けをさせながら、相手に納得してもらえるように記述させます。

※学級内で通じる「資料〇番」や「〇〇の新聞記事」などについて記述させる際に、そのまま記述しても伝わらないことを考えさせ、「〇〇という資料に・・・と載っていました」などと表現を工夫させてください。

書き終わったら、推敲させる時間を設け、自分の考え、理由を確認させてください。

提案に対するコメントをもらいます。
 相手への負担を掛けないようにして、学級で1枚いただいたり、ビデオレター風にいただいたものを文字に直し、貼らせたりすることが考えられます。学校の実情に応じてお使いください。

☆（ ）からのコメントを読んで、自分の考えをふり返りましょう。
 （これで良かった、もっとこうすれば良かった、新たな発見など。）

課外
 返ってきたコメントを基に、自分の考えを振り返らせ、改善すべきことや新たな課題などを書かせてください。
 最後に、当事者や大人でも考え悩む問題について考えることができたことを称賛し、これからも考え続けてほしいことを伝え、単元を終わります。（オープンエンド）